

教会の宝石を捜して

九州教区 八代教会 信徒

よりふじ かずよ
頼藤 和代



洗礼を受けられた
動機は？

私の信仰は、2段階に分けられます。敗戦で自分の支えがなくなり、お寺で親鸞上人の「歎異抄」を学び、それまで何でも

動機は？

2番目の段階は慈愛園を退職して、八代に移

住した時です。しばらくして先生も八代に赴任されました。あるとき先生に、親鸞上人の話をしました。そしたら先生が「人間の心の動きとして親鸞上人の教えは良くわかる。しかし一番大切なものが欠けている。それは、罪の赦しの十字架だ」といわれました。

歌が聞こえてきました。その時に、ここにイエス様がおられる、聖霊に包まれていると感して、涙が止まりませんでした。

動機は？

動機は？

人生の流れを今振り返ると、親鸞上人の教え、慈愛園での洗礼、先生との出会いは、皆つながっている、神様のお導きだと思えます。ある日教会堂に近づいたとき、賛美

歌が聞こえてきました。その時に、ここにイエス様がおられる、聖霊に包まれていると感して、涙が止まりませんでした。

興味は何ですか？
俳句です。
吾が罪の深きが故の
クリスマス
生かされて七夕飾る
タベかな
新年礼拝 受洗の少年
神様の恵みが「福音俳句」を通して、皆様に伝われば良いと思います。

現在までずっと熱心に礼拝出席と聖書の学びに参加されていますが？
今まで不熱心であま

牧師の声・信徒の声

このイザヤ書のみこ
とばは、私がルーテル神
大(現・ルーテル学院大)
の入学を考えていた頃
に、私に与えられたみこ
とばです。

前半の「あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。これが行くべき道だ、ここを歩け、右に行け、左に行け」というみことばを聞いたのです。

「それが行くべき道だ、ここを歩け、右に行け、左に行け」というみことばを聞いたのです。

「それが行くべき道だ、ここを歩け、右に行け、左に行け」というみことばを聞いたのです。

あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。
「これが行くべき道だ、ここを歩け
右に行け、左に行け」と。
イザヤ書 30章 21節



東海教区
みのり教会・浜松教会・浜名教会 牧師

みうら ともお
三浦 知夫

＜牧師の声＞ 私の愛唱聖句

求道者の旅

※「求道者の旅」より抜粋

A SEEKER'S JOURNAL

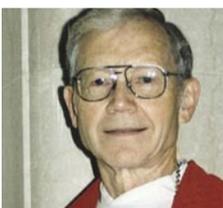
第18回 罪と性

「アダムは、自然によって生まれる人は、罪をもって生まれる。すなわち神をおそれず、肉慾をもっている。そして、この疾病は、まことに、罪であって、洗礼と聖霊とによって再生しないものの上に、今でも罰をあたえ永遠の死をもたらすのである」(アウグスブルク信仰告白第二条からの抜粋)

この怖い16世紀の教義が、果たして21世紀の私達に意味あるものとして語りかけてくる事が可能なのでしょうか。

心と肉の対立

「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている……わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか」これは、キリスト教の歴史の中で最も偉大な聖徒であるパウロの苦悩する言葉です。彼でさえ心と肉の絶望的な対立を体験してい



ケネス・J・デール
ルーテル学院大学名誉教授
引退宣教師

るのです。(ローマ信徒への手紙7章19～25節参照)
今なお、私達は人間を「ホーリスティック(全体論的)」に捉えようとしています。人間存在の全ての面を一つの調和的全体として統合しようと試みます。肉体面の不調の原因となると言われるがゆえに、内なる対立を排除しようと欲しているのです。

どちらの見方が正しいのでしょうか。パウロは心理的不調に苦しんだのでしょうか？それとも統合された人格の現代見解が間違っているのでしょうか？内なる調和を見出す事は可能なののでしょうか？私自身は調和を渴望していますが、実際は心と肉、崇高な理想と衝動的行動の狭間で常に軋轢がある事を見出しています。この葛藤は、私の本性がきわめて不完全である事を日々思い起こさせ、そして神の前で謙虚にさせるのです。

セックスの要素

セックスは私達の経験の中でのしかかるように、時には大きく現れてくるので、人生におけるさまざま

まな体験の中でも最も重要な要素と考えざるを得ません。これはセックスが私達の肉体的、感情的、そして社会的性質の上に確固として根ざしているからです。実に強い力を持っているのです。

またセックスは、その欲望を絶対的に満たさなければならぬと考えるように私達を欺いています。より大きな満足感が、仕事の達成、友情、健康、平和な心、他者から払われる尊敬等によって得る事ができます。長期的には、このような事がセックス同様に幸福な人生を創造していく上において重要なのです。

性欲と進化

「肉の欲」(アウグスブルク信仰告白では「肉慾」)は残酷です。これさえなければ崇高な理性的、精神的な性質を享受する事ができるのに、私達を動物的に駆り立てるのです。私達の肉体的性質に基づく性欲は、私達を嘲ります。なんとすれば、理性、精神が間違えているとわかっている事を私達に感じさせ、行わせるのです。

人類の進化において、精神が完全に肉の欲望や衝動的行動から自由になる時が来るのであろうかと思つた事がありますか。進化の段階で果たして到来するのでしょうか、それとも私達が「天国」と呼ぶ場所においてのみ実現するのでしょうか。

(翻訳：上村敏文)

【聖書研究】

詩編を味わう 文 賀来周一

6 | 沈黙の信仰



沈黙して主に向かい、主を待ち焦がれよ。繁栄の道を行く者や悪だくみをする者のことであらう立つな。

詩編37編7節

世の不公平に泣く

世の中はといえば、さして努力もしないのに出世を遂げる者がいたり、悪知恵に長けて要領よく立ち回る者が目に付きます。こちらはといえば、一向に報われそうにありません。誠実に生きる者は結局損をするようにできているのが世間というものだ。どうするかと怒りさえ込み上げてきます。世の中はまことに不公平に見えてなりません。できれば悪事を働いて悪者を一掃し、善は善に報い、悪は悪をもつて応分の次第を受け取るのを当然とする世の中がやつこいなものか、と心中穏やかならざるものを抱えて、怒りと羨望を押しさえるのに苦慮していたのでしよう。

しかしながら、声高に世間に訴え出る勇気もなく、うつ屈した思いで世を凌ぐ人の心中を察した、この詩編の作者は、「いら立つな」「うらやむな(37の1)」と言っています。世の中の

不公平に泣く人の心中を伺わせるに十分であります。

このような事態にさいして、詩編の作者は敢然と立ち向かい、正義を貫けとありきたりの常識論を振り回さないので。彼は、沈黙して主に向かい、主を待ち焦がれよ。繁栄の道を行く者や、悪だくみをする者のことであらう立つなと教えます。周囲を見て、いら立するより、むしろ「沈黙せよ」と言うのです。敢然と立ち向かう勇氣ある姿勢に比べれば、「沈黙」とは、まるで周囲の悪知恵の働く策士や要領よく立ち回る人間を前にして敗北したかのようであります。

沈黙を選ぶ

これは、この世の常識に逆らう姿勢です。この世の常識は公平さを欠く事態には敢然と立ち向かう勇氣を持つことが当然とするものです。それに反する行動はまるで負け犬がしっぽを巻いて逃げるが如き印象を与えるものです。沈黙とは諦めることなのでしょ。か。諦めに通じる沈黙は、不本意な思いを抱いて外の世界を眺める者が口を閉ざすようにひたすら口が身を守るだけに終始する保身の姿勢であります。そこには主體的に打つ出る姿勢はなく、内的な葛藤を蔵したままの受動的態度があるのみです。

しかしながら、作者は「沈黙して主に向かえ」と勧めるのです。この場合の沈黙は積極的な主體的行為です。頭をうなだれた不甲斐ない態度ではありません。沈黙を積極的に選び取ることで、何事もできない無力の自分になれと命令をしているのです。この場合の「沈黙」とは、無力である自分を表明する態度のことです。あります。無力でなければ見えない

世界があることを知った者のみが取れる態度です。それは主なるお方の力により頼む世界のことです。もしも自分の力を振り絞って、周りの世界に立ち向かえば、外なるお方の後ろ盾を見失うてありましよう。沈黙を選び取ることは、己を越えた後ろ盾の強さを我がものとして生きることであります。

作者にとって「沈黙をもって主に向かえ」とはいたすに声をあげて神に助けを求めようとするものではありません。仕方なくそうするのでもありません。むしろ沈黙をもって、いと神の前に出るので。信仰の告白として沈黙するのであります。「沈黙して神に向かう」とは、まさしく信仰の告白を沈黙をもってする者の姿にほかなりません。その内面は「いらだち」と羨みに代わって、信仰の火に燃えています。だから「主を待ち焦がれるのです」。

沈黙の信仰

同じ姿を哀歌の作者の中に見ます。軛を負わされたなら、黙して独り座っているがよい(哀歌3章28節)とは、自らの可能性はもはやどこにも期待できず、仕方なく黙ってうずくまるほかなしとする諦めの心境であります。沈黙して独り地上に座す勇氣ある者の姿です。何もできないことを自ら選び取ることにあつてのみ見えてくるものがあることを知った者が言い得る言葉です。他に手の打ちようがないので、仕方なくそうするのではありません。ここにも、積極的に沈黙をもって信仰の告白とする者の姿があります。信仰の告白は己の耳に聞える言葉だけではありません。沈黙の信仰がなければ外なるお方の声は聞えないのです。

(かくしゆついち)

執筆者を講師に

出前

講座 LAOS

講義全体風景



今年になって、各地な講座があり、関係者が講師としてお招きを頂き、LAOSの学びの会が開かれています。

5月以降を見ますと、5月21日、西九州群(会場は唐津教会で講師に江藤先生)、6月3-4日三遠地区修養会(会場は挙母教会で講師に江藤先生)、7月2日名古屋地区(会場は復活教会で講師に江藤先生)、8月1日、東海教区夏期聖書学校(会場は新霊山教会で講師に太田先生)となっています。他にも執筆家への相談や依頼も頂き調整中のものもあります。

今回は、一番最近開かれた東海教区夏期聖書学校から、参加者の声をもとに、その模様をお伝えします。

これは、東海教区の宣教部の主催で開かれ、「聖書学校」の名にふさわしく、LAOS講座第4号の著者 太田一彦先生が講師として招かれました。

講演では、太田先生の謙遜なお人柄が伝わってきて、講演内容の深さ・豊かさともに聴衆一人ひとりが深い感動を与えられました。歴史を貫いて働かれる神様の救いの確かさ、素晴らしさに「一同が酔いしれた一日でした。」

また、新約聖書の使徒言行録から先生が語られた弟子たちの「第2の召命」という指摘に目を開かれた思いです。神様の召しは一度だけのものではなく、さらに深い次元への召命へとわたしたちを常に導いていくと、と確信することができました。



講演をする太田一彦先生

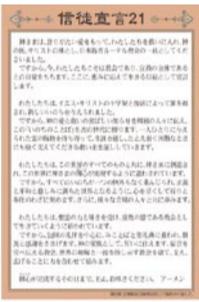
LAOS講座を用いての講演は、もちろんのことですが、開会礼拝には「信徒宣言21」を皆で唱えることができました。宣教室から乙守さんも撮影に駆けつけてくださり、いつものな



楽しい昼食の風景

このように、宣教室やPMの各委員会では、各種の講演会や集いにお出かけして、お役に立ちたいと考えています。JELC-JELA共同プロジェクトの、アメリカワークキャンプや、インドワークキャンプ、TNG各種行事、また計画中で視察を終えたパレスチナ平和交流プログラムなども、スライドなど各種資料や参加者の証も携えてお話を伺います。現在、インドやパレスチナのキャンプや交流から学ぶメッセージの依頼も宣教室の乙守さんが受けています。

せっかくのJELC全国の諸プロジェクトから、互いに学びを共有し、成長させていただく機会となればと思います。また、皆様の教会のお取り組みも、全国に共有するために、お知らせください。宣教室や広報室でお待ちしています。



「信徒宣言-21」素敵なカードでお届け

先年全国総会で承認されました、「信徒宣言21」のカードがようやく完成し、皆様にお届けできることになりました。各教会に無料配布の形でお送りさせていただきましたので、お受け取りください。デザインは、P2委員会のいろいろなアイデアと意見を、るうてる編集を担当しているデザインのプロの事務局職員・南雲さんが形にしてくださいました。いくつかの候補から、何度も見直しをし、素敵で、そして便利なカードになっています。

聖書にも挟めるし、またはデスクや壁にも飾れる葉書サイズで両面カラー印刷です。信徒宣言の裏には、ルターの紋章とその説明がルターの肖像とともにレイアウトされています。このルターの画は、現地にいきドイツのヴィッテンベルクの市教会の聖壇にあるルーカス・クラナハの画から説教をするルターの部分をとりました。

ルーテル教会の伝統と教えに立ち、そしてこの21世紀の現代に生きる私たちの信仰の宣言を、皆様の議論と意見をいただいてまとめた「信徒宣言」ですが、それらの思いがこのカードにこめられています。

どうぞ、ご活用ください。

